

平成 30 年度 登山道利用者数の推計について（東大雪地域）

上士幌自然保護官事務所

※登山者カウンターのデータについては、精度が不十分な現状を踏まえ、環境省としては生データを丸め、おおよその利用者数として以下のページで公表しています。

<https://www.env.go.jp/park/daisetsu/data/tozandoriyosya2016.html>

※本資料は、東大雪地域について、生データを用いたより詳細な利用傾向の分析を試みるものです。

1 はじめに

(1) 調査対象

天宝山及び西ヌプカウシヌプリは、登山者カウンターや入林簿を設置していないため、ウペペサンケ山、ニペソツ山十六ノ沢コースは、登山口に通じる林道が通行止めであるため調査対象から除外した。今年度からニペソツ山幌加温泉コースを追加した。

(2) 調査期間、調査方法

登山口毎の調査期間及び調査方法は別紙 1「登山口毎の調査期間及び調査方法」とおり。

(3) 登山者カウンター

ア 赤外線式カウンター（映測サイエンス社製・LR カウンターⅢa：写真左）

赤外線ビームを発射し、そのビームを反射した物体を検出する。左右に 2 個配置したセンサーが入下山を区別し利用者 1 人 1 人を秒単位で記録する。蓄電池で作動し、太陽電池で電源を補う。

イ 熱感知式カウンター（仏エコカウンター社製・eco counter：写真右）

センサー自体は赤外線を発射せず、人体表面から放出する赤外線を受信し、人を検出する。上下に 2 個配置したセンサーが入下山を区別し 15 分ごとの登山者数を記録する。内蔵電池で約 10 年作動する。



(4) 欠測、その他特異事項

石狩岳シュナイダーコースにおいて、9 月 21 日(金)～10 月 4 日(木)の間、LR カ

ウンターの蓄電池電圧低下のため欠測を生じた。

一部の山で風倒木の被害、大雨に対する警戒により登山できない期間が生じた。これらの期間については、別紙1「道路通行止めと入林禁止の期間」のとおり。

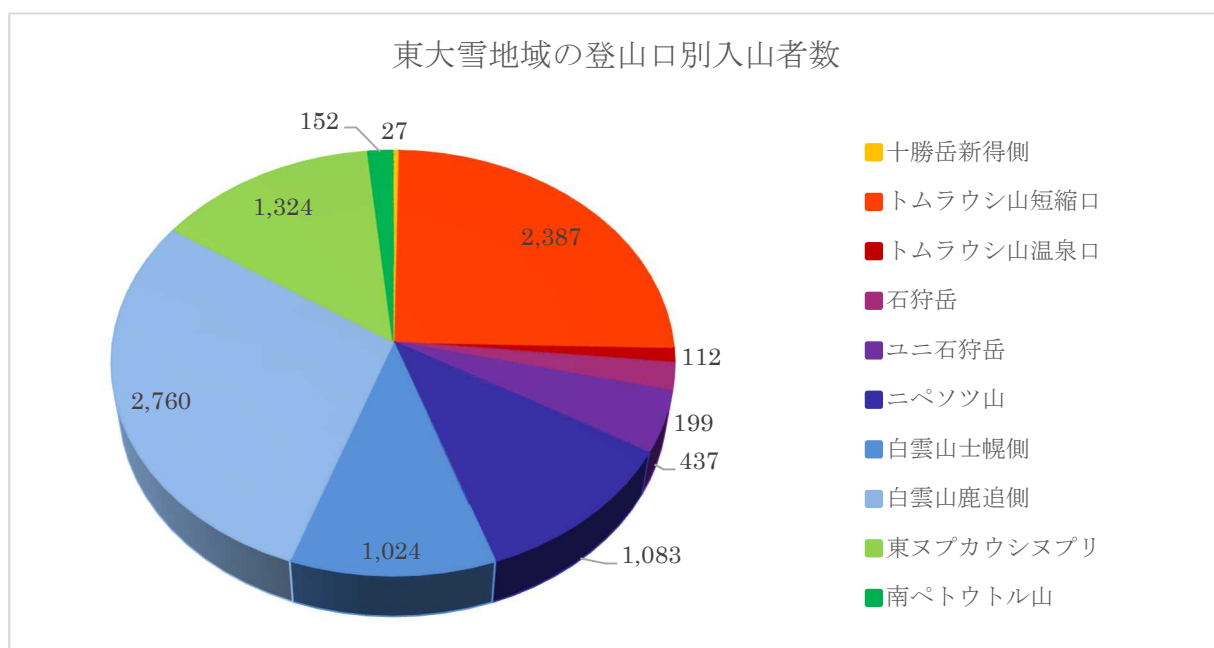
2 東大雪地域全体

(1) 入山者数

調査期間中、東大雪地域全体の入山者数は9,505人で、昨年の8,272人を上回った。

(2) 登山口別入山者数

白雲山鹿追側が昨年並みの2,760人で最多となった。然別湖周辺のほかの登山口ではいずれも昨年を上回り、復活したニペソツ山とともに全体を押し上げた。



(3) 登山口毎の月別入山者数

標高の高いところで8月に降雪があるなど天候に恵まれなかった月もあるが、雪の訪れは遅く、白雲山などは10月も変わらず登山者が訪れた。

登山口	年間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
十勝岳新得側	27	0	0	4	0	0	23	0	
トムラウシ山短縮口	2,387			161	928	804	459	35	
トムラウシ山温泉口	112			19	28	35	17	13	
石狩岳	199			5	16	99	69	10	
ユニ石狩岳	437	0	0	45	23	215	132	22	
ニペソツ山	1,083			110	332	262	276	103	
白雲山士幌側	1,024	60	250	195	119	105	142	153	
白雲山鹿追側	2,760	2	189	535	477	486	565	470	36
東ヌプカウシヌプリ	1,324	25	91	159	218	200	384	183	64
南ペトウトル山	152	13	4	22	27	28	13	35	10

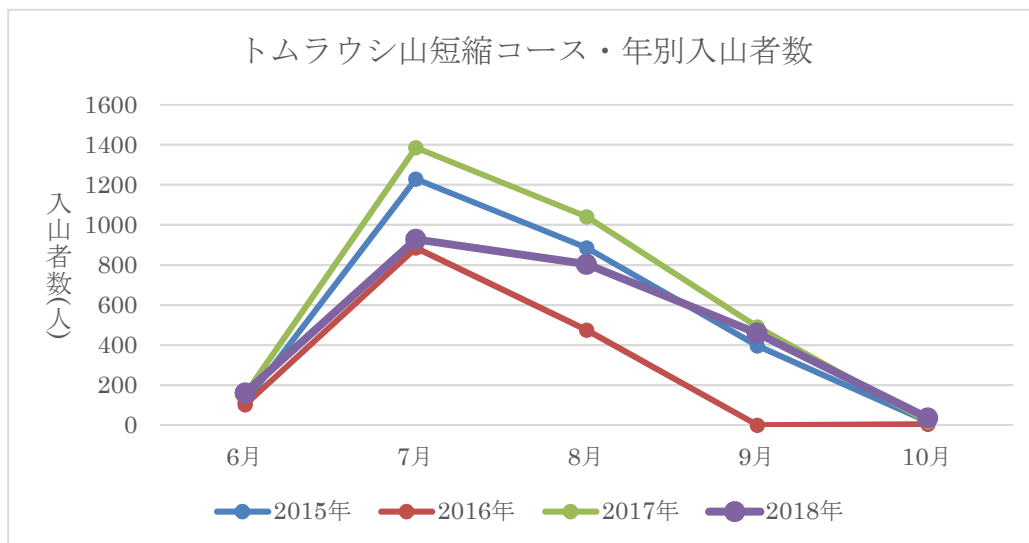
合計	9,505	100	534	1,255	2,168	2,234	2,080	1,024	110
----	-------	-----	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-----

3 登山者カウンターに関する考察

(1) トムラウシ山短縮コース

ア 概要

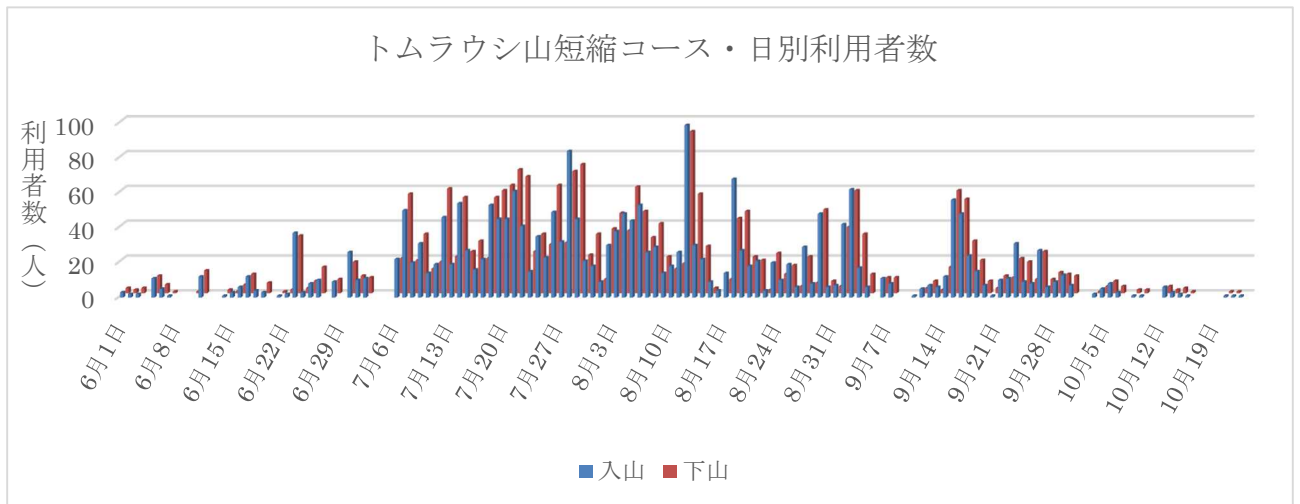
調査期間中の利用者数は、入山 2,387 人、下山 2,572 人であった。台風被害のあった一昨年に次いで過去 4 年の中で少ない数字となった。シーズン中に雨が多かったことが影響したと考えられる（別紙 2「年毎（6～10 月）の降水量と日照時間」参照）。



イ 日別利用者数

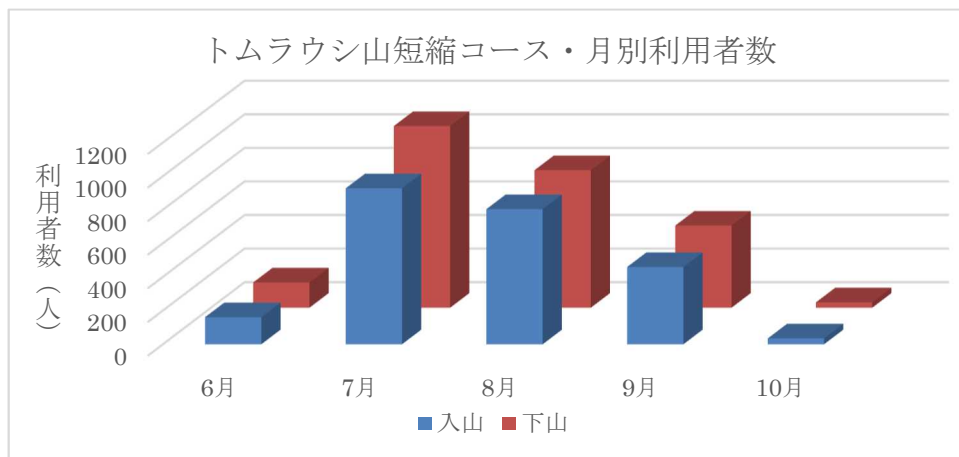
日別の利用者数を入下山の合計で並べてみると、上位 5 日は次のとおり。

日付	曜日	入山者	下山者	合計
8月12日	日	99	93	192
7月28日	土	84	70	154
7月21日	土	61	71	132
9月2日	日	62	59	121
7月29日	日	45	74	119



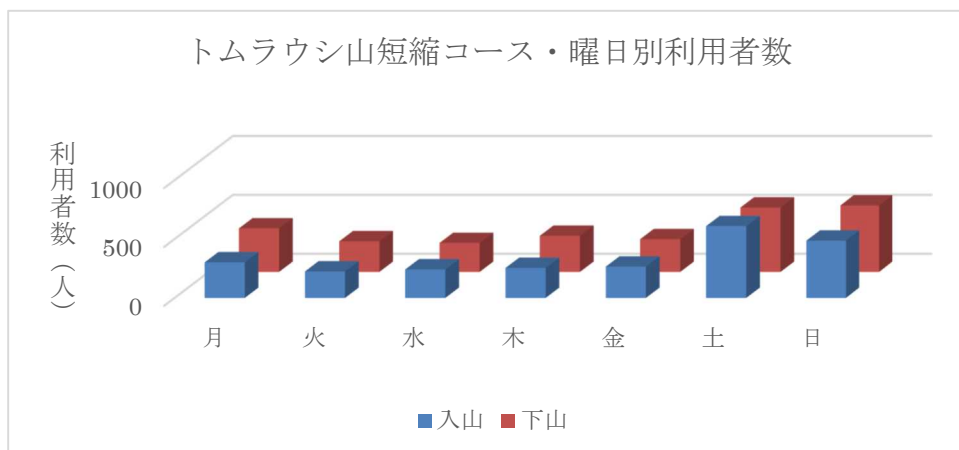
ウ 月別利用者数

7月が全利用者数の4割を、8月が3割を占めている。



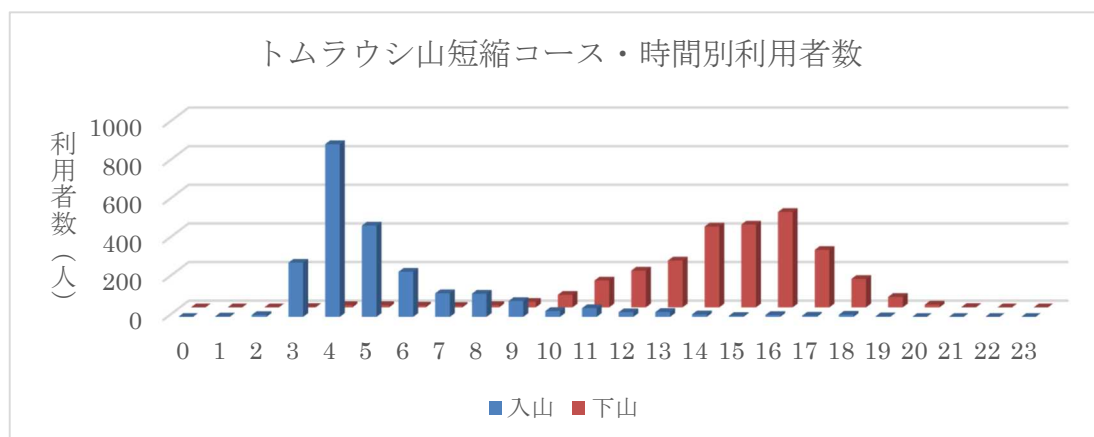
エ 曜日別利用者数

多いのは土曜日、日曜日であるが、平日では月曜日がやや多い。海の日など月曜日の祝日や振替休日が4日あったが目立った利用数はなく、多くは日曜日からの山行に連続して引き上げられたと考えられる。



オ 時間別利用者数

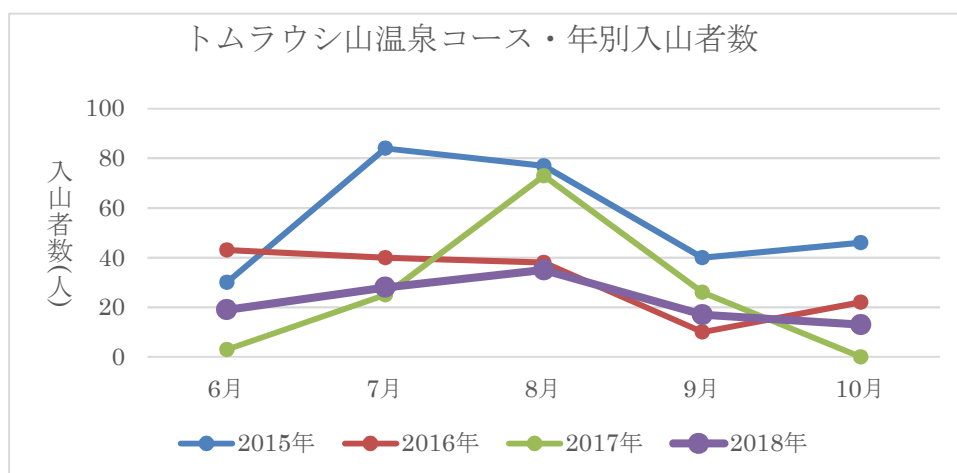
入山は3～6時に集中し、下山は13時から18時頃までに渡っている。



(2) トムラウシ山温泉コース

ア 概要

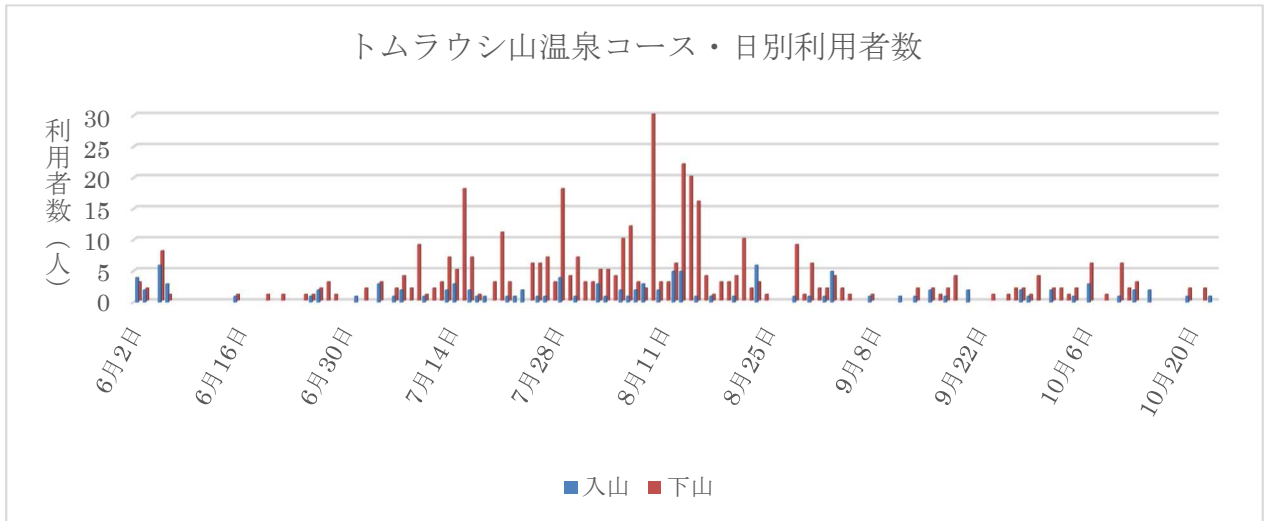
調査期間中の利用者数は、入山 112 人、下山 416 人であった。昨年の入山 127 人、下山 421 人を下回り、3 年連続で減少している。



イ 日別利用者数

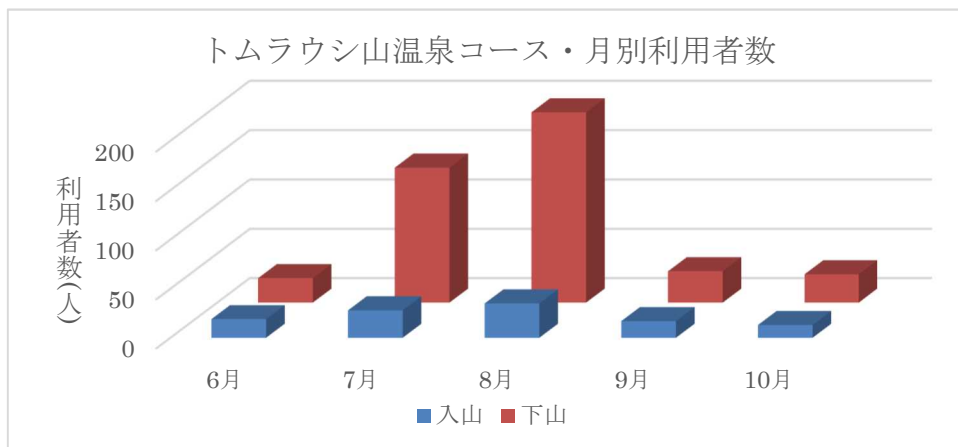
日別の利用者数を入下山の合計で並べてみると、上位5日は次のとおり。下山が入山の4倍であり、1日の利用者数は最多でも30人であるので、日別順位は下山利用者と多人数パーティの動向に左右される。

日付	曜日	入山者	下山者	合計
8月9日	金		30	30
8月13日	火	5	22	27
7月28日	日	4	18	22
8月14日	水		20	20
7月15日	月		18	18



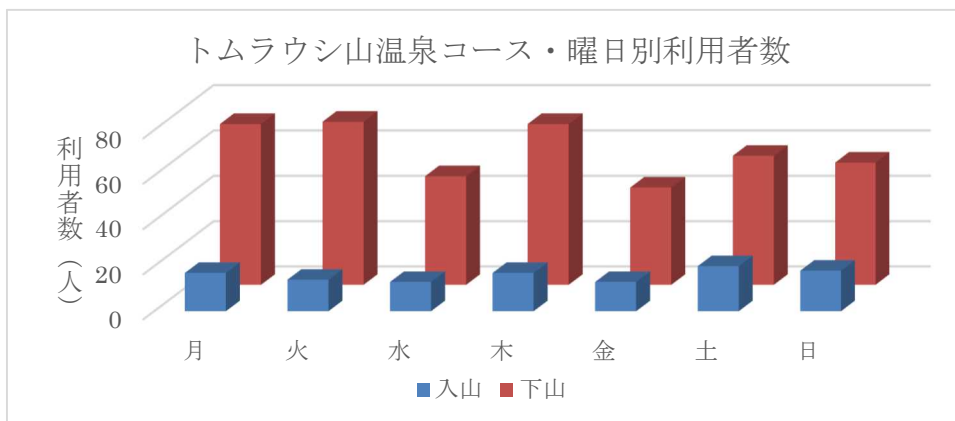
ウ 月別利用者数

下山者が入山者を大きく上回り、縦走での利用者が下山口として利用していると考えられる。



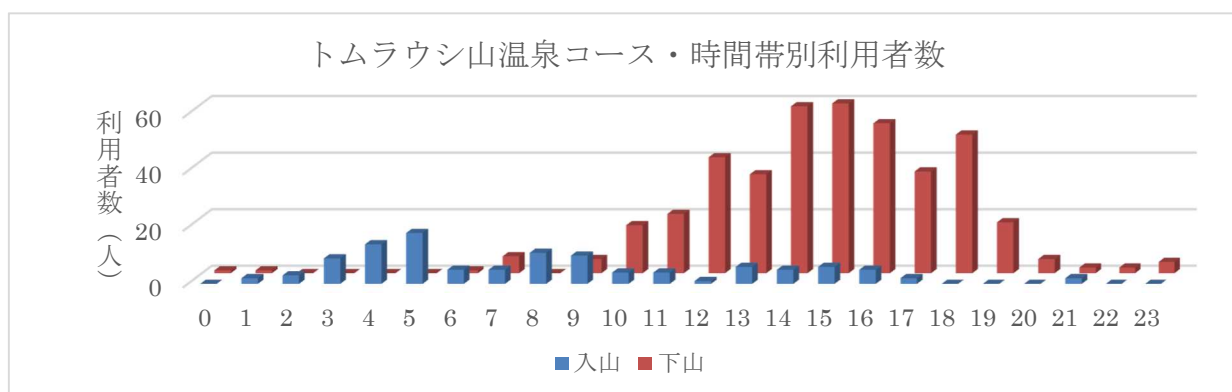
エ 曜日別利用者数

数字が小さく顕著な開きがあるとまでは言えない。いずれの曜日でも下山者が入山者を大きく上回っている。



オ 時間帯別利用者数

行程の長さから、ほとんどは山中泊を伴う登山者だと考えられる。日帰り往復でなければ行動には余裕があり、入下山の時間帯に極端な集中は見られない。



(3) 石狩岳シュナイダーコース

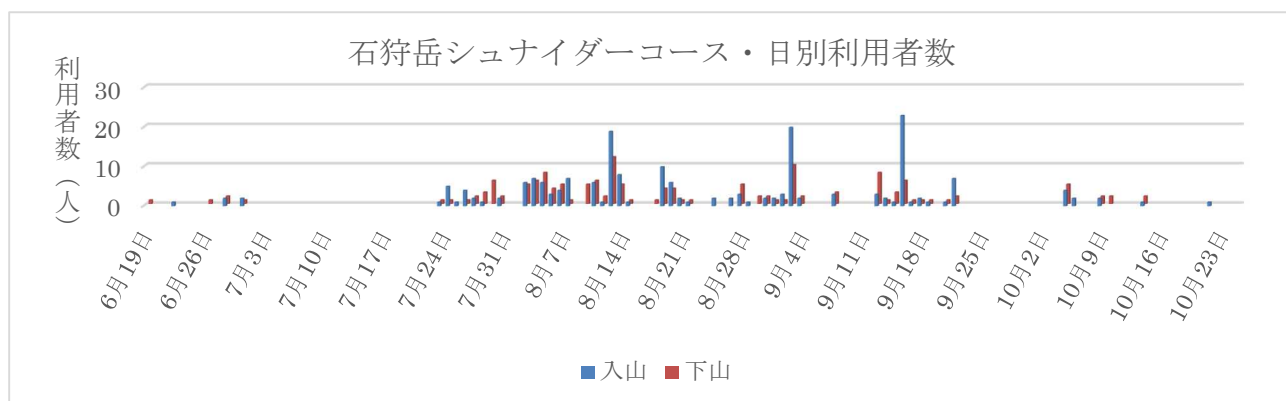
ア 概要

調査期間中の利用者数は、入山 199 人、下山 153 人であった。調査のない 2017 年を除き、2016 年の入山 337 人、下山 318 人、2015 年の入山 255 人、下山 245 人を下回り、3 期連続で減少している。7 月に 20 日間の通行止めが発生したほか、一昨年の台風被害で川床が広く埋められ登山者カウンターの前を通らずに入下山できるようになったことも要因の一つかもしれない。

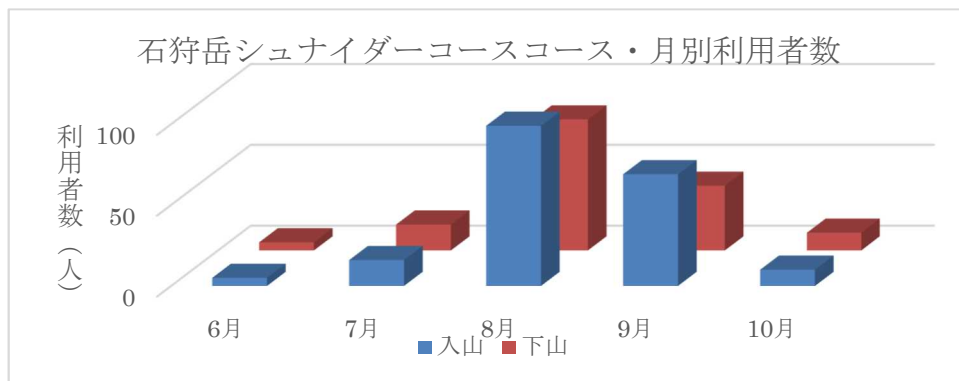
イ 日別利用者数

日別の利用者数を入下山の合計で並べてみると、上位 5 日は次のとおり。

日付	曜日	入山	下山	合計
8月12日	日	19	12	31
9月2日	日	20	10	30
9月15日	土	23	6	29
8月4日	土	6	8	14
8月18日	土	10	4	14

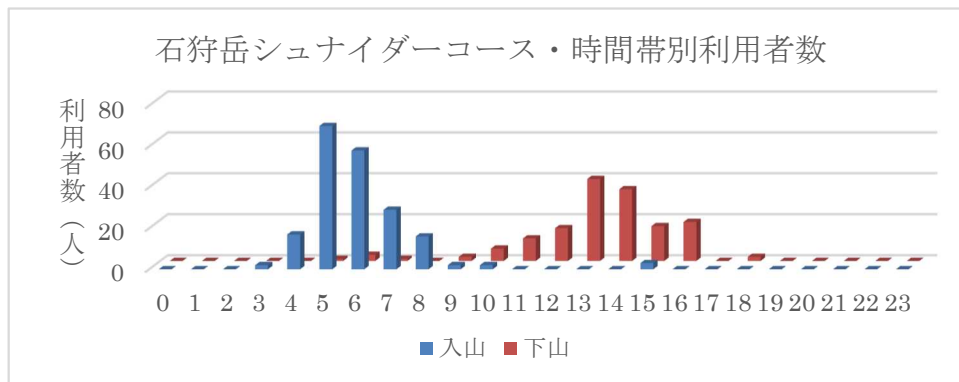


ウ 月別利用者数



エ 時間帯別利用者数

入山は5時台に、下山は13時台にピークが見られる。



(4) ニペソツ山幌加温泉コース

ア 概要

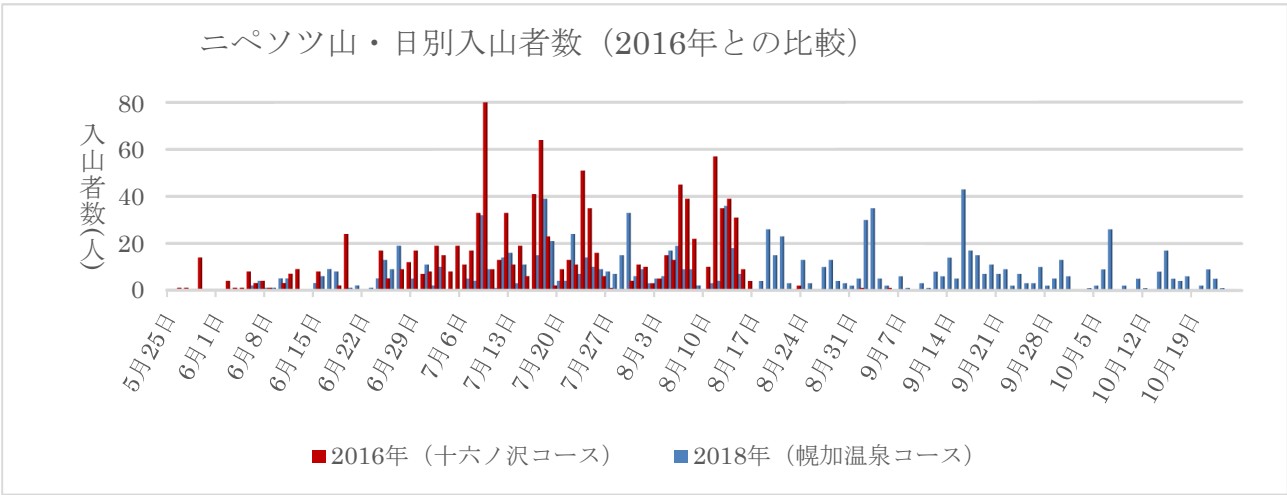
調査期間中の入山者数は、1,083人であった。一昨年の十六ノ沢コースは、1,087人であった。総数では肩を並べたかに見えるが、一昨年は8月中旬から台風被害のため林道が通行止めであり、利用可能な期間の比較では大きな差が認められる。

※ほかの地域への縦走路はないため、入山のみで分析した。

イ 日別入山数

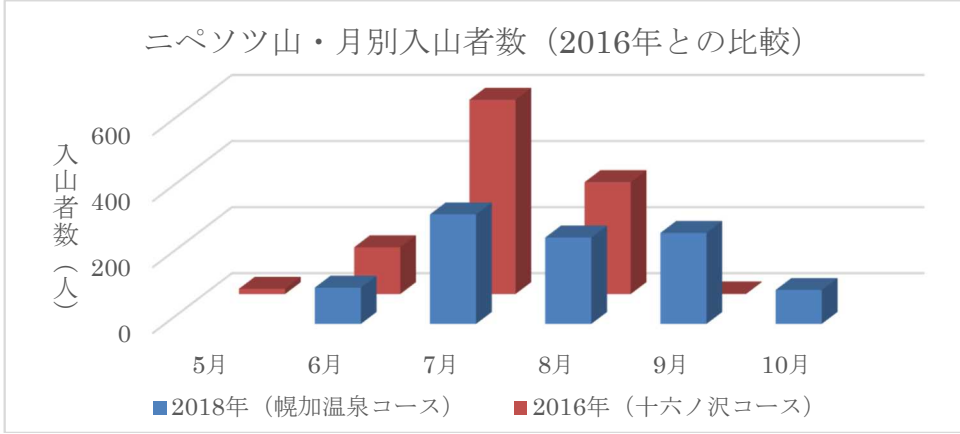
日別に入山者数を並べてみると、上位5日は次のとおり。9月敬老の日の連休にかかる土曜日が最多となった。

日付	曜日	入山
9月15日	土	43
7月17日	火	39
8月12日	日	36
9月2日	日	35
7月29日	日	33



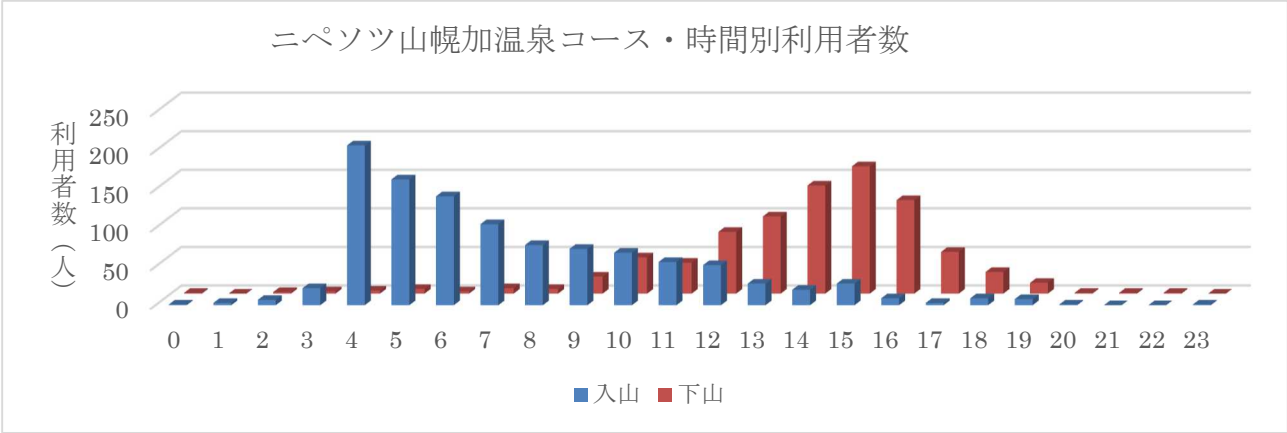
ウ 月別入山者数

公式に供用が開始されたのは7月28日であるため、それまで登山を控えた利用者が9月の入山者数を押し上げているかもしれない。



エ 時間帯別利用者数

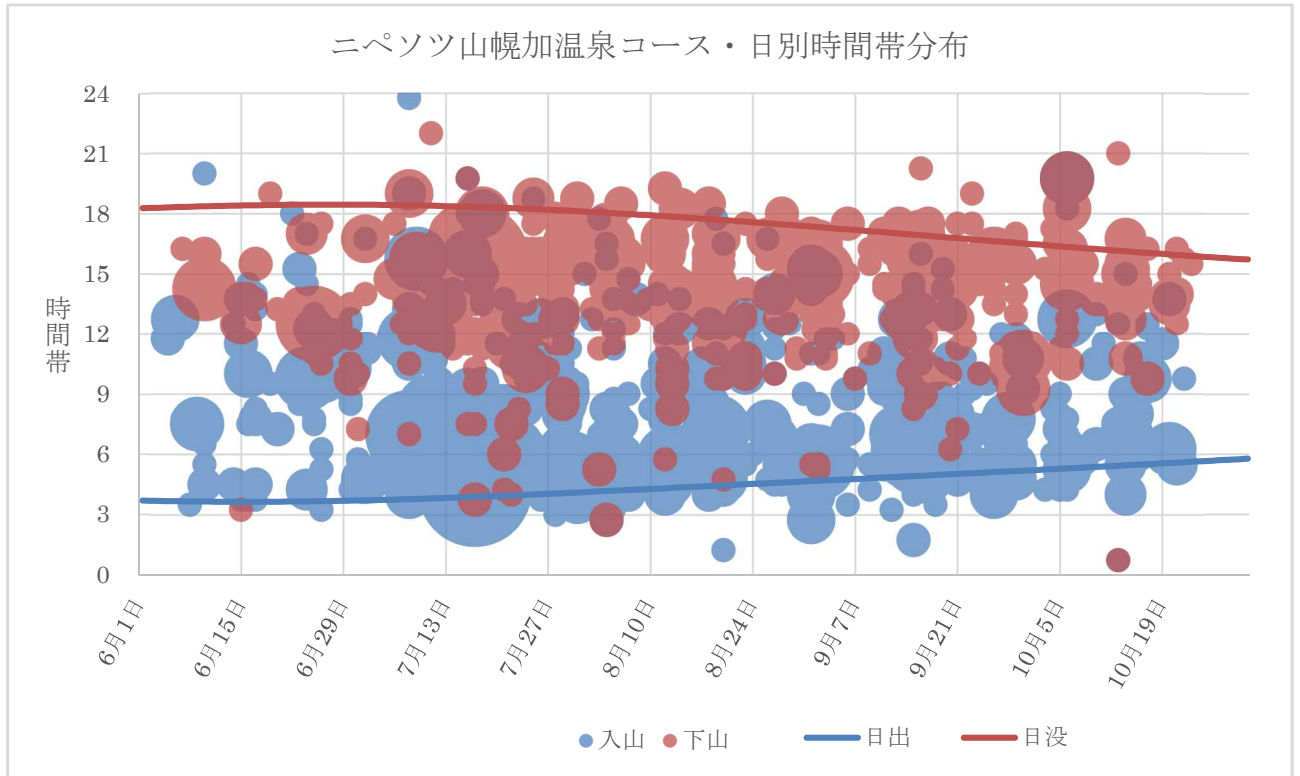
入下山時間帯のピークから日帰りの登山時間は11時間前後と考えられる。山中泊を選択する登山者も多くいると考えられ、入下山時間帯は幅広く分布している。



オ 日別の入下山時間帯分布

日付を横軸に、時間帯を縦軸に、利用者数をバブルの大きさに分布を表した。

登山時間が長い幌加温泉コースにおいて、日出没の時刻に応じて入下山時間帯が変化していることがうかがえる。



登山口毎の調査期間及び調査方法

登山口	調査期間	調査方法
十勝岳新得側	9月～10月	国有林入林簿
トムラウシ山短縮コース	6月1日～10月23日	赤外線式カウンター
	6月1日～10月23日	【参考】熱感知式カウンター
	4月～10月	【参考】国有林入林簿
トムラウシ山温泉コース	6月1日～10月23日	赤外線式カウンター
	通年	【参考】国有林入林簿
ユニ石狩岳	8月～10月	国有林入林簿
石狩岳	6月19日～10月24日	赤外線式カウンター
ニペソツ山幌加温泉コース	6月5日～10月24日	熱感知式カウンター
白雲山士幌側	4月～10月	国有林入林簿
白雲山鹿追側	4月～11月	国有林入林簿
東ヌプカウシヌプリ	4月～11月	国有林入林簿
南ペトウトル山	4月～11月	国有林入林簿

道路通行止めと入林禁止の期間

登山口	道路通行止め・入林禁止期間
十勝岳新得側	9月初めまで林道通行止め
トムラウシ山短縮コース	7月3日のみ林道通行止め
トムラウシ山温泉コース	被害なし
石狩岳	7月3日から22日まで林道通行止め
ユニ石狩岳	7月3日から22日まで林道通行止め
ウペペサンケ山	林道通行止め
ニペソツ山十六ノ沢コース	林道通行止め
ニペソツ山幌加温泉コース	被害なし（7月28日公式に供用開始）
白雲山士幌側	被害なし
白雲山鹿追側	被害なし
東ヌプカウシヌプリ	被害なし
南ペトウトル山	被害なし

毎年 6～10 月の降水量と日照時間

年	新得		ぬかびら源泉郷	
	降水量	日照時間	降水量	日照時間
2015	563.0	724.4	602.0	698.1
2016	1271.5	612.0	1635.0	634.2
2017	645.0	717.9	707.5	670.6
2018	921.0	605.0	1154.5	661.9

2018 年月ごとの降水量と日照時間

月	新得		ぬかびら源泉郷	
	降水量	日照時間	降水量	日照時間
6	125.5	116.7	152.5	136.3
7	231.5	85.1	328.5	148.5
8	329.0	107.2	269.5	113.6
9	76.0	156.9	140.5	142.7
10	159.0	139.1	263.5	120.8

2018 年曜日ごとの降水量と日照時間

曜日	新得		ぬかびら源泉郷	
	降水量	日照時間	降水量	日照時間
月	109.0	90.1	99.5	100.7
火	160.0	67.2	227.0	80.7
水	196.5	78.7	240.0	86.4
木	169.5	94.9	194.0	108.8
金	96.0	87.0	86.0	85.6
土	120.5	100.9	179.5	100.6
日	69.5	86.2	128.5	99.1

平成30年度大雪山国立公園入山者数の推計結果(登山者カウンター等カウント値結果)

資料13 参考

● 対象とする登山口

平成30年度は、下表の登山口を対象とした。位置図は別紙のとおり。なお、現時点では利用者が少なく、登山者カウンターを設置して人数を計測しても、全体数の誤算の範囲に含まれてしまうと考えられる登山口は対象にしていない。

● 結果の概要

①月別の入山者数は、最も多い月が9月、その次が7月であると考えられる。

②入山者が多い上位3登山口は、黒岳登山口、十勝岳登山口(十勝岳方面)、姿見の池(裾合平方面)である(データが欠損した姿見の池(旭岳方面)を除く。)

なお、熱感知式カウンターの精度検証の結果から入山者数の実数はカウント値よりも一定程度少ないと考える必要がある。平成30年度6月～10月期の大雪山国立公園の年間のカウント数を単純に合計した値について、これまでに実施した精度検証の結果から、仮に誤差が約110%～148%と仮定すると、大雪山国立公園全体の入山者数は約7～10万人程度の間にあると考えられる。

登山口	年間	6月	7月	8月	9月	10月	推計方法	カウンター設置期間
1 黒岳登山口	約29000程度	約1200程度	約9500程度	約6600程度	約10000程度	約1300程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月29日～10月12日
2 銀泉台登山口(第一花園下)	約10000程度	約100程度	約2300程度	約1300程度	約6000程度	約200程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月28日～10月4日
3 高原温泉登山口(緑岳コース)	約3100程度	約100程度	約1000程度	約700程度	約1200程度	約50～100程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月19日～10月10日
4 高原温泉登山口(沼巡りコース)	約6300程度	約200程度	約500程度	約400程度	約4800程度	約300程度	ヒグマ情報センター利用者数資料	—
5 クチャンベツ登山口	—	—	—	—	—	—	熱感知式カウンターからの推計	—
6 愛山渓温泉登山口	0～50程度	0～50程度	—	—	—	—	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月18日～10月3日
7 姿見の池(裾合平方面)	約10000程度	約800程度	約4900程度	約1400程度	約2800程度	約400程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月20日～10月17日
8 姿見の池(旭岳方面)	約23000程度	約800程度	約8500程度	約6600程度	約6000程度	約1000程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月20日～10月17日
9 美瑛富士登山口	約1000程度	約300程度	約300程度	約300程度	約200程度	約0～50程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月15日～10月10日
10 天人峽登山口	約700程度	40～60程度	約200程度	約200程度	約200程度	—	人感センサー式カメラからの推計	平成30年6月21日～9月25日
11 十勝岳登山口(美瑛岳方面)	約1900程度	約200程度	約700程度	約600程度	約400程度	約50～100程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月15日～10月10日
12 十勝岳登山口(十勝岳方面)	約11000程度	約1100程度	約5200程度	約1600程度	約2800程度	約200程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月15日～10月10日
13 十勝岳温泉(安政火口)	約1900程度	—	—	0～50程度	約1700程度	約200程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年8月29日～10月10日 ※カウンター故障のため6月15日～8月28日までデータ欠
14 原始ヶ原登山口	約400程度	約100程度	約50～100程度	約100程度	約50～100程度	約40～60程度	人感センサー式カメラからの推計	平成30年6月15日～10月9日
15 十勝岳新得側登山口	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	国有林入林簿からの推計	—
16 トムラウシ山(短縮コース)登山口	約2400程度	約200程度	約900程度	約800程度	約500程度	約0～50程度	赤外線式カウンターからの推計	平成30年6月1日～10月23日
17 トムラウシ山(温泉コース)登山口	約100程度	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	赤外線式カウンターからの推計	平成30年6月1日～10月23日
18 石狩岳登山口	約200程度	約0～50程度	約0～50程度	約50～100程度	約50～100程度	約0～50程度	赤外線式カウンターからの推計	平成30年6月14日～10月24日
19 ユニ石狩岳登山口	約400程度	約40～60程度	約0～50程度	約200程度	約100程度	約0～50程度	国有林入林簿からの推計	—
20 ニペツ山(幌加温泉コース)登山口	約1100程度	約100程度	約300程度	約300程度	約300程度	約100程度	熱感知式カウンターからの推計	平成30年6月4日～10月24日
21 白雲山土幌側登山口	約700程度	約200程度	約100程度	約100程度	約100程度	約200程度	国有林入林簿からの推計	—
22 白雲山鹿追側登山口	約2500程度	約500程度	約500程度	約500程度	約600程度	約500程度	国有林入林簿からの推計	—
23 東ヌプカウシヌプリ登山口	約1100程度	約200程度	約200程度	約200程度	約400程度	約200程度	国有林入林簿からの推計	—
24 南ペトウトル山登山口	約100程度	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	約0～50程度	国有林入林簿からの推計	—

●計測手法ごとに実数に対して多い又は少ない傾向にあるといった計測値の特性が異なること、同じ計測手法であっても熱感知式カウンターの場合は場所により誤差が異なることも考慮に入れて、次のように取り扱った。

①登山口ごとに、月別にカウントした生データの値を記入した。登山口ごとの年間合計と、月別の合計値は、これらの値を単純に足し合わせた値である。

②明らかなエラー値については、除去した。

③上記①で求められた値のそれぞれについて、次のように表記した。

・1000以上の数値については、有効数字を左2桁として、3桁目を四捨五入した。

・100～999の数値については、10の位を四捨五入した。

・0～39の数値については「約0～50程度」、40～60の数値については「約40～60程度」、61～99の数値については「約50～100程度」と表記した。

●上記の操作を行ったため、次の点に注意が必要である。

①登山口ごとの各月別のカウント値の合計と登山口ごとの年間のカウント値の合計は一致しない。②各月の登山口ごとの人数の合計と、各月の合計の人数は一致しない。

●登山者カウンターは、雪解け後、できる限り早い時期に設置しようとしているため、設置以前に入山した登山者は把握できない。積雪により登山者カウンターが回収することができない可能性があるため、回収を急いだ登山口については、撤去後の登山者は把握できない。

●参考

銀泉台(第一花園上)でも計測をしており、その値は、年間約7,700程度、6月約100程度、7月2,800程度、8月約1,000程度、9月約3,700程度、10月0～50程度であった。銀泉台(第一花園下)の計測値との差は、銀泉台(第一花園)のみを採勝した人の数を意味する。

姿見の池周回コースのみを散策した者の数は、この表には含まれていない。

愛山溪温泉へ至る道道が平成30年7月初旬の大雨で通行止めとなったため、7月以降は同登山口から入山する登山者は把握していない。

クチャンベツ登山口に至る林道が平成28年7月31日の大雨で通行止めとなったため、同登山口から入山する登山者は把握していない。

ウペサンケ登山口に至る林道が平成28年8月から通行止めのため、これらの登山口から入山する登山者は把握していない。

雪解けの早い然別湖外輪山については4月から入山があり、国有林入林簿からの推計では、4月・5月合わせて、白雲山士幌側登山口が約300程度、白雲山鹿追側登山口が約200程度、東ヌブカウシヌブリ登山口が100程度、南ベウトル山登山口が0～50程度であった。

平成30年度登山者カウンター設置等箇所 位置図

大雪山グレード



■大雪山グレード (利用体験ランク)

- グレード5 『大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート』
- グレード4 『大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート』
- グレード3 『大雪山の自然を体感する登山ルート』
- グレード2 『大雪山の自然とふれあう軽登山ルート』
- グレード1 『大雪山の自然とふれあう探勝ルート』
- 非適用 (登山道として供用していません)

注) グレード5のうち点線表示のルートは次のとおりですので、注意して下さい。
 ・台地ゲートから三川台のルートは、一般供用された登山道ではありません。
 所定の手続きをとり、自己責任で利用して下さい。
 ・三笠新道分岐から高根ヶ原分岐の三笠新道は、ヒグマとの軋轢を避けるため利用期間を限定している登山道です。夏山シーズンでの利用はできません。

■主なアクセス道

- 国道・道道 — 町道 - - - - - ロープウェイ・ペアリフト
- 林道 (G施錠ゲート) (●現在通行止)

①	黒岳登山口	熱感知式カウンター
②	銀泉台登山口(第一花園上・下)	熱感知式カウンター
③	高原温泉(緑岳コース)登山口	熱感知式カウンター
④	高原温泉(沼巡りコース)登山口	ヒグマ情報センター利用者数資料
⑤	クチャンベツ登山口	熱感知式カウンター
⑥	愛山溪温泉登山口	熱感知式カウンター
⑦	姿見の池(裾合平方面)	熱感知式カウンター
⑧	姿見の池(旭岳方面)	熱感知式カウンター
⑨	美瑛富士登山口	熱感知式カウンター
⑩	天人峡登山口	人感センサー式カメラ
⑪	十勝岳登山口(美瑛岳方面)	熱感知式カウンター
⑫	十勝岳登山口(十勝岳方面)	熱感知式カウンター
⑬	十勝岳温泉登山口	熱感知式カウンター
⑭	原始ヶ原登山口	人感センサー式カメラ
⑮	十勝岳新得側登山口	入林簿
⑯	トムラウシ山(短縮コース)登山口	赤外線式カウンター
⑰	トムラウシ山(温泉コース)登山口	赤外線式カウンター
⑱	石狩岳登山口	赤外線式カウンター
⑲	ユニ石狩岳登山口	入林簿
⑳	ニペソツ山(幌加温泉コース)登山口	熱感知式カウンター
㉑	白雲山士幌側登山口	入林簿
㉒	白雲山鹿追側登山口	入林簿
㉓	東ヌプカウシヌプリ登山口	入林簿
㉔	南ペトウトル山登山口	入林簿